



分七寸三 コ ヲ 紙 表
分二寸五 テ タ

寸 三 コ ヲ
寸 四 テ タ 粹文木

序

五ツ乃ちちとこつまきようつ
せーきかろ融の大屋ろと
つもたきーでおかよひなさる
よち乃陸電ちろろ後始を
うまろ初もこんを界を
唐ももかうをけ川なう
を川と夜火の時あぬさう

わー一かた乃冊子よち
しそて書肆予よせ題号
らふ融るまをけきん
いふむよゆーふけとをゆべの
口舌あゆーとまよほの神の
はらう云爾

山東京傳述

序

五ツのまちを三ツまたにうつせしはかの融の大
臣のをごりもはだしておかよひなさるにちか
の塩籠ちかころ塩屋かしらねどもこんな世界
は唐にもなかず此川なかにばつと花火の時な
らぬさかりを何がし一まきの冊子にしるせし
とて書肆予に其題号をこふ艶なるまきをけが
さんはといなむにゆるしなればゆふべの口
舌水にしてとみにほの神のはらう云爾

山東京傳述

自叙

世人を酔らば何れも
糟を喰ひ其汁を
女郎買の糠みそ汁を
人の寐を山々

あまの教ありハ
女郎買の糠みそ汁を
喰ひ其糟臭き酒
乃ほ酔きん小覺
枕をまく

中小つくと火燧一

く特寐の夢もあつ
せな後小覺一
て乃後小覺一
かいつまんを秋

閑窓一
赤蜻蛉著
天明けきハツの

自叙

世人みな酔らば何れも
糟を喰つて其汁をす
ざるとの珍芬翰は毛通
人の寐言にしてのたまく
になれとの教なり予はま
た女郎買の糠みそ汁を喰つ
て其醜臭き新酒のほろ酔
きげんに臂をまけて枕と
し樂また其中にありと

火燧へころりと轉寐の夢
ともなくうつし共なき遊
びの始終さめての後に覺
しまゝを所くかいつま
しながら書付侍る
天明けきハツの

はつ春 赤蜻蛉著

女郎買之棟系増汁

○ 彙端

日落漲流三派連と。からうたにつ
らねし大江も。今は中洲の新天地と
て。地ごく極らくふた道の繁華は
いふもさらなりけり。然るに名高
き五丁まち。去りし頃。祝ゆふの災
にかゝり。名におふ娼家とふざい
に離散せしに。此處風流の土なれ
ば。かりに青樓をいとなみ。遊客
をひきけるなかに。酒狄やとなん
いへる娼家あり。しかるに彼樓の
せまきをいとい。諸客おゝくは。
丸藤といへる酒樓にあつまり。は
まおきの佳人をむかへ。ゆふらく
をなしにける。けふしも此處へい
りきたるは。千丈。頭谷。英江な

といへる正風ていの大通三人。あ
とにつゞいて。匠者のどん庵。焼
みそ酒の一杯きげん。あたりもひ
ゞく大音聲にて。七公／＼とよび
かけ。とや／＼とおしこむ。

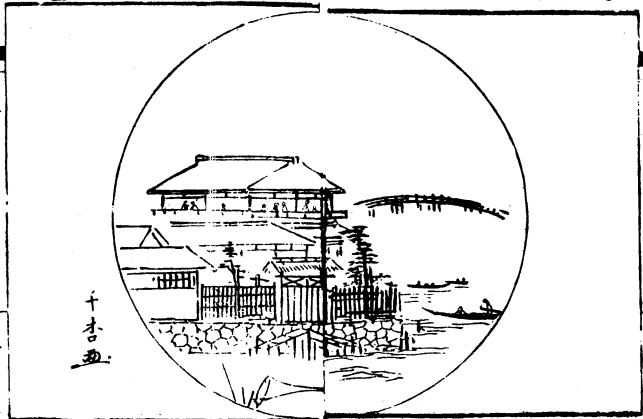
てい七兵衛 これは／＼。けふはめづらし
く。どなたもお揃で。よふおいでなさ
りやした。まづ／＼。お二階へ。ソレ
おのぶ。おみよ。おさかづきをあげもふ
しや。あいとこたへて。娘おみよ。盆
に茶を三ツのせてもつてくる。娘おみよ
どなたも。よふお出なさりやした。ま
づお茶をおあがりなせへし。四人あ
い／＼。はい。これ。おみよさん。今日はま
だみんなが酒がたりねへから。いつも
やうに騒ぎやせん。はやく酒をもつて
きな。そして七かうをよんでくんな
あいつて。はしごたん／＼。しばらく
して。七兵へくる。娘椅子杯もつてくる。七
あ／＼。どなたもおあがんなさりや
し。時に頭谷さん。このごろア。こゝ
にもとんだ美しい者がござりやす。ち

つとお呼びなさりやし。客そうだらう
／＼。今日みんながこゝへきたも。そ
の下心さ。どふも美しい奴ときいぢや
ア。こいつアこたへられぬ。ぎりぎりに
つたまきヒイといつては。またたく。とかくこ
の通人ヒイといつて。あたほをたゞく舞有。
番ア／＼わつちやア。フロウよりウエイ
ンがい／＼。おみよさん。一ツつぎな。
をつとよし／＼。そ。一ツのんで。千丈へさす。フ
ロウとは女の事。ウエインとは酒の事。いづれも
おらんだことばなり。この醫者。十一これは。と
んだい／＼さげだのからぐりだ。とむだを
がら。客わつちやア此ごろア。目がわる
へさす。客わつちやア此ごろア。目がわる
いからきんしゆだが。かふなつちやア
やぶれかぶれだ。壹ツのめ。とぐつと
のみ。どふもいへぬ。と又あたほを一ツた
てさかづきをやる／＼。ま。客これ英江さん。
はし。無性にしやる。客これ英江さん。
わつちやア。ロードゲシクトになりや
したろふね。ゴロウトにせつなふごせ
へす。もふウエインは止にして。ちつと
ヒスクでも。荒しやしよふ。ロードゲレク
トは。かほの

あかき事也ヒスクは魚なり。いづれも閑語也。

密さあ。子供衆をおよびなさりやし。たゞ酒斗のんでいちやア。ねつからはじまりやせん。せんさんどふでござりやす。〔子〕そんならよほふちやアねへか。〔三人〕よかろう／＼。〔子〕藝者もたれを呼んでくんな。二ちやうつゞみが賑でよかろふ。〔卒〕しよふち／＼。と立てゆく程なく二ちやうつゞみ。マル。どなたもよふおいでなせいした。とんだお寒うござりやす。鉢はいなをほらじる。火。〔子〕お近附のため。トツあげやしよふ。〔マル〕ちとおさはりもふしやしよふ。〔子〕まづ／＼。〔寒時〕にあのまる次さんわ。みや岸のおきくぼうによく似てだせ。目もとなら口もとなら。そのまゝだよ。〔密〕なアに。川岸の山もとの。おもよといふもんだよ。〔囃みよ〕いゝゑ。英江さんのおつせいすをり。みや岸のおきくさんによく似てござせしす。わつちらもそふ思ひやして。此ごろもみんなにそう申

しやした。裂それ見や。ちがやアしめい。おいらが目はおそろなものよ。ア、つがもねへ。しかし。おきくぼうに似ちやア。おや／＼どふしよふの。〔密〕あやまるせ／＼。サアちつとひいてくんな。これより二ちやう放にて。大さぶざん。ばらくして。おいらんきたる。ふざん。みつをき。江川。住の月。どなた。よふおいでなんした。と四人ならぶ。〔テ〕サアおさかづきをなさりやし。と。これより杯初り。谷よ。〔テ〕みなさり。千。どん。あいとすむ。〔テ〕みなさん。ちつと火ばちのそばへお寄りなせいし。だいぶお寒うござりやす。頭合さん。おさわぎなせいし。〔寒騒〕くなといつても。さわぎやすよ。頭こくさん。てんびんぼうを。三人しておどろふちやアねへか。〔密〕よふごせいしよふ。サア岸次さん。ひいてくんな。〔キ〕アイ。哥。〔子〕てんびんぼう。〔密〕とちめんぼう。〔エイ〕上野にこほんば



千吉画

う。[三]三尺ぼう。[四]六尺ぼう。[相いらん]を
 や／＼。いつそ。おつな身をなんすよ。
 どふもおかしくつてなりいせんよ。[困]
 そふ笑つちやア。どふもおどられねへ。
 これから狐つりにしよふ。サアつろな
 へ。狐をつろな。こん／＼ちき。こん
 ちきち。ア、つたつた。どふも。七か
 うが身が妙だよ。とみなく笑い。おいら
 やかなり。ほどなく床マルキシどなたも。ご機
 嫌さまよふ。とかへる。[江川] サアお休みな
 んしよ。よく騒ぎなんすぞ。ぬしたちや
 ア。見申したよふでありいす。近所か
 へ。[奥]アイ随分きんじよさ。このごろア。
 こゝもとんだ賑かだね。おめい方も
 町にいるよりやア面白かるふ。[江川] ナア
 ニわたしたどもア。はやくてふへ歸りとふ
 おすよ。いつそもふ地獄とやらのやふ
 で。方々へていして。何だかきざであ
 りいす。もと。つへはよ。なん
 しよ。とこれより。そとなり。無性無性ふきん
 いやく。又隣さしまでは。

モシへ頭こくさんとやら。わたしらア。
 こよひはいふ年忘れをしいした。焼ん
 してから今夜のやうに。わらいした
 事はおざんせん。とんだ面白ふあり
 した。ぬしたちやア。この近所だとい
 うなんす。どのお屋敷だへ。[窓]アイ。
 やしきは遠方の近所さ。ふきんそふ茶に
 なんすなら。きういすまい。あのね。
 わたしら内の方を見ている。おいら
 やア。むかふの方を。大名さん方がとを
 りなんすが。とんだ大勢な人であり
 すよ。近所へ。ちよつとでなんすにも
 あの通りかへ。[窓]いんにや。あれでも
 又忍びのときアちがふのさ。ふきんそふ
 でおつしよふ。あの通りの人で。あそ
 びなんぞにおいでなんしちやア。みん
 なの居所がいろいろすまい。此頃もこ
 のかね。若殿さんが。お馬で通なん
 したがね。いつそ美しうありした。
 わたしやア。いつそもふ見とれいして。

うつかりとしいした。どふぞならふ事
 なら。ぬでもあげいたいもんであり
 います。及ばぬ事とは思ひながら。いつ
 そもふ。とはきし。[窓]アヤ
 だ。そのお屋敷をきいておいていきな
 せい。ア、目がいたくなつてきた。もふ
 静かにしてねやしよふ。ふきんねかし申
 すこつちやアごせいしない。操りいす
 にへ。もつとお話なんしよ。どふもぬ
 しなごの様に。見得のない客衆はあり
 せん。何でもいひたいまをいふな
 んして。騒ぎたいよふに騒ぎなんすが
 よふおすよ。いつそ見得をなんしたり。
 をつな身をなんす客衆は。おかしうお
 すよ。通といふも外でもありいすま
 い。人にあたる事もいふなんせす。見
 得もなく。もちまへで面白く遊びなん
 すが。通といふものでありいしよふ。
 など。無性にかきのめす。向座敷から千は眞名
 意題のしやれ風にて。奥州訛のこはるにて。ど

すこゝを感^カへぬて。[甲]アソカしいしたちやア。おかなく口説とやらをおつはじめなすつたの。コリヤ。ふとのめいもあるもんだつチヤ。[ふ]さんなんとな。ねつから分りいせんよ。もつといつておきかせなんしな。[子]唐いん好一朵鲜花。有潮の一日。落^{オウロウヤク}在^{オウロウヤク}我的家。我情缘。不出門。那對着那^{オウロウヤク}鮮花。呵々。[ふ]さんおや／＼。ほんの唐人の寐言とか。いゝすもんでおさんしよふ。みつ荻さん。江川さん。きゝなんしたか。おつな事をいわつしやるよ。とみなくわらふ。千。[子]コ。リ。ヤ。いに。ちくど無心がある。きいてくれめすか。[みつ]無何とおすへ。無心があるとへ。ぬしの無心なら。なんでもきういしよふ。[子]スタライいふべし。コ。リ。ヤ。くらわれがおかなくしこつたから。いきびいたくらせやれ。[みつ]何とへ。いきびとへ。いちびがらの事かへ。[子]いんにや此事いし。

ぞねへ。色となむだをよくいゝなんす。ちつとほんの事を話^ワしなんしなぬしたちやア。とんだ藝者でありいす。いつそ好きんしたよ。もつとこつちへおよりなんしな。寒うありいすはな。[子]わつちやア。酒によつていつそあつていから。もつとそつちへ寄つてねなよ。[みつ]無とんだあいそづかしをよくいゝなんす。ぬしが退けといゝなんすほどのきいすまい。ふし。どふなんす。し。る。か。と。お。を。き。[子]わつちをにしてどふするつもりだ。いつそ寒い風でもひいちやアならぬ。大事の体だよ。[みつ]その大事のからだを。ちとふ。て。あ。い。よ。ふ。く。[子]アイタ。これちやア堪忍ならぬわね。[みつ]堪忍ならざア。どふともしなんし。わつちも堪忍なりいせん。[子]とふして。[みつ]かて。はしらなみく。又向座敷では。[子]アセールトロコノ。の。は。し。ま。い。の。コ。ツ。ヒ。イ

で。意ッがすぎたそふな。よげつふうく^ト。[在]の目ぬしもとんげ唐人だね。そんな事をいゝなんしちやア。わつちどもにやア。一ツがわがりいせん。そんな事は長崎とやらへでも。いつて、いゝなんすりやア。よふおすに。こんな所でない。いゝちからがありがたいすまい。すきいせん。じれつとふおす。とみちちをむ。[在]そんなら。もふいゝやすめい。ウエインわいやだが。スマツカがなんぞ食いたい。[在]それ。いふまいといながら。又いゝなんす。ほんの毛唐人だね。スマツカとは何の事だへ。[在]むま^ムいものゝ事さ。[在]マヤ。ぬし達かむま^ムい物といゝなんすものは。大方猪や豚でありいしよふ。そして犬なぞもくいなんしよふね。[在]何でもくふのさ。[在]エ。モ。い。つ。そ。げ。か。ら。は。し。い。氣。が。つ。い。て。み。い。す。り。や。ア。何。だ。か。ぬ。し。や。ア。お。つ。な

匂がしいすよ。いつそ胸が悪くなり
した。んとすねる。つばを吐き。ひんしや存
どふも。そふおめへのつん／＼して。

わつちをこなす所が有難い。気がたか
くつて。とんだ風流だ。とむしやに獨での
窓であ。皆歸らふせ。しくちつちやア
ならぬよ。千丈子も。頭谷子も。もふ
起やよ。四四なせ。そのよふに急ぎなん
すな。もつど。かふしておいでなんし
よ。[二]わつちも。かふして居たいは山
／＼だが。どふも屋敷は門がやかまし
くつてならぬから。早く歸らにやアな
らぬよ。[四]なせその様に。やかまし
くいゝすね。窓なに。門ばかりじやア
ね。體体。屋敷はいろ／＼の作法が
あつて。折目正しいものよ。身の自由
になるは。町の事だよ。わつちらも
どふぞ一年ばかりも。町にいてみたい
よ。[四]わたしたどもは。お屋敷へいつ
てみたおおすよ。いつやらもね。米屋

をこわしいした時分。町へも来いす
つて。皆が騒ぎいたしたによつて。もふ
／＼いつそ怖くつてね。わたしとし
した事が。上草履をはきいたま。坐
坐つていゝして。みんなにいつそ笑は
れいたした。その時なんぞは。お
屋敷じやア。どふしていなんし
たへ。[四]ナ。あんな事にや。屋
敷でとんちやくするもんだ。又
やしきへ指でもさして見たがい
ゝ。おつた切つてしもふばかり
だ。わつちらア。どふぞ来ればい
ゝと思つて。まつていたのさ。
[四]それ。おみなんし。そふい
ふ時やア。お屋敷がよふありい
すは。ぬしの所へ。わたしやアいつて
見たふおすよ。[二]おめへのよふな者
が来てみなさい。おゝかぶりだ。サア
かへろふせ。皆いゝ加減に。いちやつ
きやよ。かへるせ／＼。[三]おい／＼。

江戸英さんは。どふもかへし申しやア
しいしねい。といつて帯をひつ。[四]これさ
よこしやよ。もふどふもいらねへ。
と帯をひつはりや。そのうち。千丈。頭谷は拵へ
てくる。あゝ帯をむりにどり。しめながら出る。
存あんは大ふき。[四]江川ぞんなら。どふ申し
ぎの帯子なり。



もかへりなんすかへ。又いつ来なんす。
[二]いつでも来やしよふ。女郎三人そん
ならあした。[三]人あしたは。どふも来
られやせん。二三日中さ。女郎どふもお
名残りをしいが。おさらばへ。[四]人又お

ふ迄はさらばだア。チ、チン。どこのか鐘がごん／＼。

○秋色庵の段

こゝに秋色庵蘭支とて。風雅でもなくしやれでなく。世を秋風のくさのいほ。庭もおちばに冬がれの。ききやう。かるかや。女郎花。離がもとにのこる菊。ふりおく雪に埋もれて。景色さびしき閑窓に。ひとりごちたる晝さがり。蘭しさん。おやどにか。とおとなふ人は。

千丈。頭谷の兩子。

蘭支頭谷さん。千丈さんか。サア。おはいり／＼。いつもご盛んでいゝの。わつちどもア。寂寥としてゐるのみで面白事といつちやア。つゆはともございせん。なんぞあたらしいはなしでもあるなら。ちつとお話しなせし。蘭支さん。此ごろの丸ふじの理屈

ア。どふつけなすつた。千丈子に。けさちらと聞いた斗り。どふも分りやせん。くわしい事がきくとふごせへす。蘭支さん。そふでございしよふ。大分いりくんだこつたから。一朝一せきにやア話されやせんよ。まづかい摘んでい、やしよふなら。おのぶがいよふがそふでございせん。わたし共がしよふをあしくおぼしめすなら。こゝばかりが茶屋でもございすめいから。御氣にいつたところへおいでなせいしとさ。そふいふところへ客のほうから。あやまつていく馬鹿もねへもんさ。これ斗りで。わたしどもア。もふ丸ふじへゆく氣はございしねへ。千丈さんどふおもいなさる。千丈さよふさ。わたしどももふ行く氣はございしねへ。何の事アねへ。これからまるふじをやめて。はまをぎへゆくがいよじやアございしねへか。ツコクそふなら。そふしやしよ

ふ。けふはわつちも暇だから。ひらや山をさそつて。はまをぎとでやしよふ。もし七がやかましくいつたら。そりやアその時の事さ。千丈なんにやかましくいよもしやすめい。もしいつたら。蘭支さん。おめいわけを付なんすか。蘭支さん。わつちにまかせなよ。いよ様そりやア。わつちにまかせなよ。いよ様にいよやしよふ。時に常任わつちがいふこつたが。こふはじまつちやアどふも詰りやせんよ。なるほど傾城。傾城の名を。古人がつけたはずでございす。それ。おめいたちも。わつちらも。相應に四角なもじも讀習つて。りかふそふに。子曰の口まねもしやして。世上の遊治どもをそしる者が。かふちやどふもなりやせんよ。まだおめいがたア。息子株でおもしろ盛りだから。人もゆるしやしよふが。わつちどもア。どふもゆるしやせんよ。もふ思ひきつてしまいいやしよふ。千支それちやアどふも

わつちどもが。先へたちやせん。かふな
つちやア。何もかもうつちやつてしま
いなせしい。困そふさ。學問もする時ア
する。また和といふものもあるもん
だ。なんでもこれから拵へなせしい。わ
つちやアもふこたへられぬ。とつて。あ
たまを。[ラ]そんならまづ行つてみやし
よふ。あアどふもつまらぬか。といふなが
なくつれちも出る。ほどなくはまをきへたり。
いつもの通り。九次きし次が鼓海にてさわぐ。内
よりしらせたるゆへ。まらなじの奉ずぐる。剛支何
かわけをつけて歸す。これより一しほにきそかに
て窓のものをたづむ。[ヤリテ]みな様へ。か
つてから申あけます。こゝは殊のはか
手せまにもござりますから。此あいだ
此四五軒隣のうちを借をきました。
どふぞあれへいらつしやりまして。賑
かにお騒がなさつてくださりませと願
ひます。サア皆さんおつれ申上。
[三人]よかろふ。さアいつてひろい所
でさわがふ。といづれも。おいらんをせ
をいて。道行といふみにて。

隣へなりこみ。又面白くさわく。ほどなく床にて
皆々。ねるとなり座敷には。おこうそ頭巾にて顔を
かくせし役者とみへし者ふたり。木口ばんとみへ
し者一人。怒しやれのすばらしき男ひとり。四人一
座にて何か。むしや。床目もし。鯉てふさん。
なせか今夜は。酒をあがりやせん。わ
つちばかり。かふ飲んちやアつまりや
せん。しかし此ごろア。しばいもやす
んちやアいるし。あす一日ねよふとさ
へおもやアすむが。それちやアめくら
れねへで。勘定がわるいす。切てふこれ
さ。そんなげびはいづつこなしさ。とん
だ見舞坊にて。酒ものます。つ
中村やさん。わつちどもア。口やアま
づいが。ほんに。何處へいつても。や
すかアされやせんよ。味噌ちやアねへ
が。この中洲でも。勘さんといつちや
顔のうれたもんさ。けふも。それ。
づゝと居續の歸りがけに。どこへしけ
こんで。額をいちらして。それからひ
まぢやアあるし。ぐつとねやした。目
がさめてみたら。鯉てふさんが来てい

なんして。こいといふなざるから。きや
した。太夫さんにやア。はじめておつ
きやい申しやす。こんな野郎だが。こ
れからお心やすくとか。なんとか。か
たく出ちやアはじまりやせん。憚りな
がら。おちかづきのため一ツあげやし
よふ。とぐつとあをりきりたてきし。いろく
をへん見廻し。かみの二人さがる。しはら
てめいたちアをつな事をいふもんだ。
この假宅で役者はいやだの。何のかの
と。そんなことア。町でいふなせしい。
この土地じやアはじまりやせん。そし
てわつち共がつれだつてきて。女郎衆
がさがつたといわれちやア。此勘さん
の顔がたちやせん。なんでも二人とも
に出しなせしい。嫌だといふなすつちや
ア。荒の幕がはじまりやすせ。とにらみつ
も荒れられては通るゆへ。下へいつて。どふわけを
つけしか。また女郎で。それより拵もすま。とこへ
まわ女いきめ。も頭巾をとりなんしな。

よくこんな所へ來なツんした。上の着物をぬいでねなんしよ。傳九さん。傳九さんなら着物ぬぎのあをばとしやしよふ。しかし今夜はとんだ寒いす。いさめもしへ。あの鯉てふさんといふなんす客人は。ねつからみもふした事がありせん。ありやア新下りかへ。團なアにありやア。素人衆さ。けふ中村やからつれだつてきたのさ。いさめほんにそふかへ。わたしどもア。ぬし達と同じこつたとおもひした。なんでも。とんだ見得坊だね。あれでも通かへ。團何。ねつからわからんてやいさ。しやうにいちやつく。向ふのざしきでは。おしまエ、モいづ。ち。おしまが聲で。と大聲でいつて。こんな様れつてへぞよふ。がかしにもあるかと鼻でづゝとち。うわぎを屏風がらひきすり落し着ながら團支などが座敷へ來てはなす。おしまふさん様。みつをきさん。江川さん。さいておくんなんし。わつちが今夜の客人は。とんだ化物でありす。初手座

敷でみいすりやア。役者のよふでありすから。もんだいろ男でありいしよふと思ひして。床へまわつてみいしたら。いつそ顔はね。赤銅の斜子とやらのよふでね。黒い顔にとんだ菊石がありすよ。そして又氣でもきいていすりやアよふおすが。とんだ見得坊で。ぐち／＼ばつかりしていつして。ねつから好きいしねへ。いつそじれつとふおすよ。ふざんそりやア。とんちきだね。それでも此方へ來ていななんしちやア。すみせん。いゝ加減につきやつてねなんしな。おじまいゝへ。もふ／＼どふおつせいしても。わつちやア参りす事ア。嫌でありす。と。泣聲に。みなくそれちやア。どふも悪い。こんやぎりと思つて勘忍してねなよ。と皆なだめる。おしち。八蔵こけつこう／＼。火の用心さつしやりましよふ引。